

令和元年度（第 63 回）
岩手県教育研究発表会発表資料

【特設分科会 1】 学力向上

個に対応した組織的な取組と連携
～課題解決型の取組の中での共通認識づくり～

令和 2 年 2 月 13 日（木）

岩手県立大迫高等学校

助 川 剛 栄

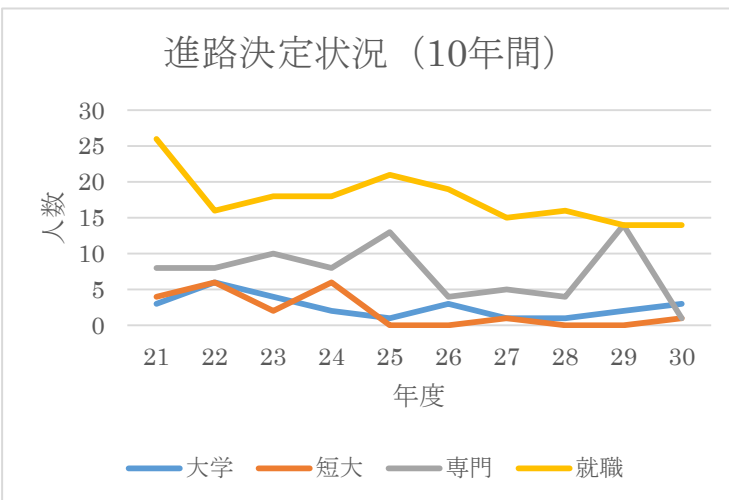
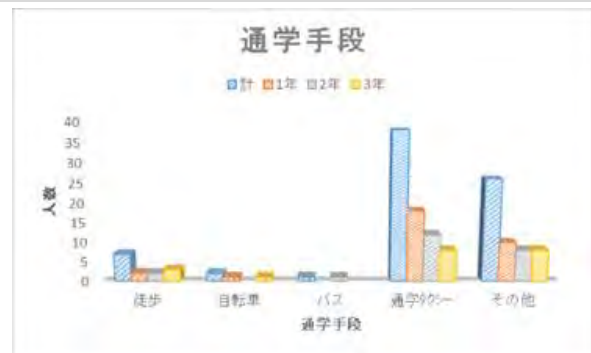
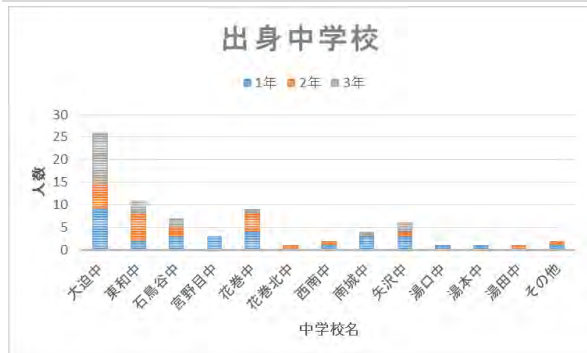
令和元年度岩手県教育研究発表会【特設分科会1】学力向上
個に対応した組織的な取組と連携 ～課題解決型の取組の中での共通認識づくり～

岩手県立大迫高等学校 副校長 助川剛栄

1 はじめに

本校は花巻市大迫町に位置し、北東方向には県内第2位の標高を誇る「早池峰山」をいただき、北側には広大なぶどう畑が広がる自然豊かな丘陵地に位置している。今年度の全校生徒は74名、各学年20人前後の1クラスずつの編成だが、個に応じた教育実践のため少人数指導を取り入れている。

2 本校の状況と特色



大迫町内からの入学

1学年	26%
2学年	26%
3学年	52%
全校	33%

通学タクシー利用者

54%

進路 (昨年)

進学	26%
就職	74%

【特色】

① 少人数クラス編成 (数学、英語、理科は学年を分割授業)

全体授業の中で個々の生徒の学習への取り組みを確認する

② 多様な選択履修 (フードデザイン、介護福祉基礎など)

講師、地域人材の活用により専門性を生かす

③ キャリア形成 (学校設定科目：3学年2単位、2学年1単位)

生徒が主体的に人生計画を立て進路を選択し決定するために

④ 地域連携学習 (ぶどう作業、加勢ノトリ大会、宿場の雛まつり、職場体験、早池峰登山)

地域の人達との協働による社会参画体験を通して社会を支える人材としての資質向上

⑤ 国際交流活動 (オーストリアベルンドルフ市 9月受け入れ、11月派遣)

国際交流の視野を広げるとともに姉妹都市交流の歴史を学び地域理解を深める

3 取組例

(1) 個に対応した組織的な取組と連携

ア学力向上につながる教科指導の取組（数学・英語）

- ・習熟度別授業
- ・中学校学習内容の振り返り
- ・特別教育支援員による学習支援

イ中高連絡会

- ・地元の大迫中学校と毎年7月に開催、会場は交互開催
- ・全職員対応

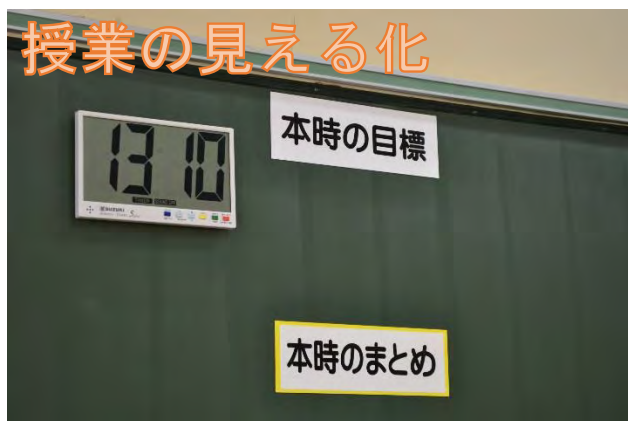


授業参観、その後懇談。高校に入学した生徒についての情報交換は年度が始まる前に中学校訪問によって実施済み。全職員対応として、お互いの様子を伝える場として実施される。今年度は中学校で設置されている部活動が高校で設置されていないことなどが話題になった。

(2) 課題解決型の取組の中での共通認識づくり

～課題を未解決のままにしない～

ア授業評価において“授業がわかる”という生徒が98%いたが、はたして学習内容は定着しているのか、その後の学力向上につながっているのか、という話題がだされた。



「わかる授業」から「できる授業」に向けて、各教室に「本時の目標」と「本時のまとめ」のマグネット掲示と、スクールタイマーを設置した。「授業の見える化」を図り学習内容の定着をめざしている。

「見える化」により、ノートへの記録も構造化し、振り返りにつ

イ支援の必要な生徒の把握と対応について十分ではないとの課題が出された。

高校教育と大迫高校についての理解促進の必要性に対して

⇒花巻市内中学校への訪問説明会

大迫高校教員のスキルアップの必要性に対して

⇒外部講師による研修、研修会参加教員による伝達講習会

『生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、

生徒が成長を感じることができる学校であるために』

令和元年度 岩手県教育研究発表会 【特設分科会1】学力向上



2019 沖縄インターハイ 自転車競技部

岩手県立大迫高等学校
副校長 助川 剛栄

と き 令和2年2月13日(木)
と ころ 花巻温泉 千秋閣

個に対応した組織的な取組と連携 ～課題解決型の取組の中での共通認識づくり～

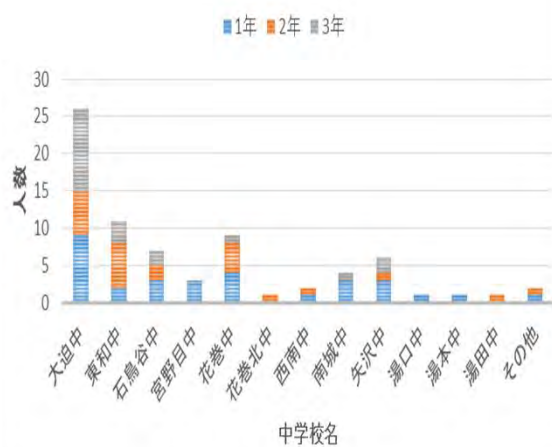




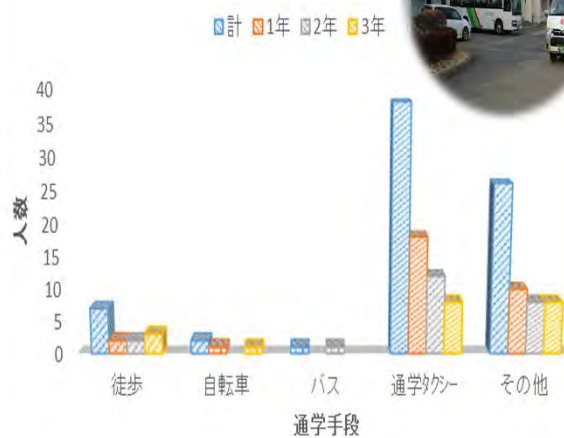
本校生徒の状況

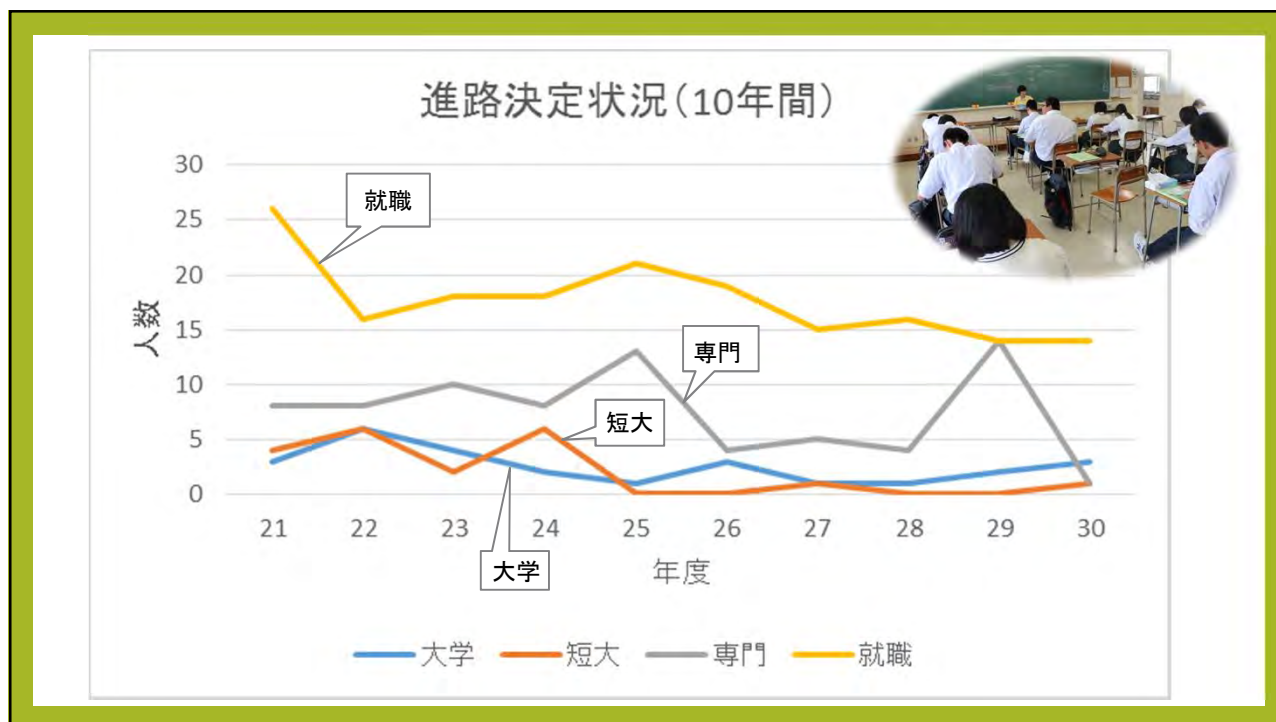
全校生徒数 74名 (1学年31名 2学年23名 3学年20名)

出身中学校



通学手段





本校の特色

- 少人数クラス編成（数学、英語、理科は学年を分割授業）
- 多様な選択履修（フードデザイン、介護福祉基礎）
- キャリア形成
（学校設定科目：3学年（2単位）、2学年（1単位））
- 地域連携
（ぶどう作業、加齢ナリ大会、宿場の雛まつり、職場体験）
- 国際交流活動
（オーストラリア・メルボルン市 9月受け入れ 11月派遣）

学力向上に繋げる本校数学科の実践例

○ 履修について

※**青字**=習熟度別授業

- ・ 1学年：【**数学Ⅰ**】、【**数学基礎**】（学校設定科目）※**TT**（**教員2**+**特別教育支援員1**）
- ・ 2学年：【**数学Ⅱ**】（2, 3学年分割履修）、【**数学A**】
- ・ 3学年：【**数学Ⅱ**】、【**数学B**】（選択科目）

- ・ 入学生徒間の学力差が大きい。
- ・ 多くの生徒が、数学への苦手意識
- ・ **数学基礎**の履修により基礎計算力の向上を目指す。

- ☆ 中学校段階の「計算分野」,「関数分野」,「図形分野」でオリジナル教材（プリント）を作成
- ☆ 事前テスト、グループ学習（演習プリント）、事後テスト
- ☆ 学習内容を**数学Ⅰ**の指導計画と連関

学力向上に繋げる本校英語科の実践例

○ 履修について

※**青字**=習熟度別授業

- ・ 1学年：【**コミュニケーション英語Ⅰ**】※**TT**（**教員2**+**ALT1**+**特別教育支援員1**）
- ・ 2学年：【**コミュニケーション英語Ⅱ**】（2,3学年分割履修）、【**英語表現Ⅰ**】
- ・ 3学年：【**英語会話**】（選択科目）

- ・ 入学生徒間の学力差が大きい。
- ・ 進学希望生徒への学力向上を図る。

- ☆ 1学年<英単語習得>中学校～高校1年段階
 - ☆ 2学年<文法習得>中学校～高校1年段階
 - ☆ 3学年（進路に応じた課題の提示）
- 週末課題



課題解決型の取組

“課題を未解決のままにしない”

- 1 授業評価において「授業がわかる」生徒の割合 98%
だが、学習内容の定着が図られているのか、という話題
⇒「わかる授業」から「できる授業」へ



課題解決型の取組

“課題を未解決のままにしない”



- 2 支援の必要な生徒の把握と対応について
ア 高校の教育活動に対する理解促進の必要性
イ 本校の教員の対応力向上の必要性

⇒① 中学校訪問説明懇談会

希望の問い合わせがある中学校に訪問し
中学校の先生方と高校生活について懇談
花巻市内 4校／11校 実施

② 特別支援に関する校内研修

県教委講師招聘、各種研修会の伝達講習実施



成長を感じることができる学校生活のために